

2) 研究・事業活動の紹介

①水研センターにおける海洋環境研究の概要と役割

業務推進部長 北川大二

○水研センター今期中期計画における海洋研究の位置づけ

- ・今期中期計画の3つの柱(資料1-②)ー重点領域の1つ、「Ⅲ. 研究開発の基盤となる基礎的・先導的研究開発及びモニタリング」を担う。
- ・「周期的な気候変動」や「地球温暖化」は、「水産物の安定供給の確保」や「水産業の健全な発展」に大きく影響すると考えられることから、その影響をモニタリングしつつ将来予測を行い、それをもとに迅速に適応技術を開発することは、水研センターに課された重要な課題である。

○どんな組織体制で取り組んでいるのか

- ・水研センターにおける海洋分野研究部(海洋データ解析センターを含む)の配置(資料1-①、資料1-③)
- ・亜寒帯域は高い漁場生産力を有し、我が国における水産物の最重要基地であり、北水研の海洋環境研究は国の独法として重要な役割を担っている。

○なぜ、海洋研究が必要か(社会・経済的ニーズの視点から)

- ・水産資源と海洋環境との関わり(資料1-④)
近年、自然現象として周期的に起こる地球規模の気候変動(レジーム・シフト)や人間活動による地球温暖化が海洋の環境と生態系へ及ぼす影響を通して、水産資源の分布や資源量にも大きく影響することが広く認識されるようになってきた。
- ・環境変動に対し安定した水産業を実現するための科学的な根拠と手法を提案
主要業務として、例えば、温暖化など気候・環境変動による海洋環境と低次生態系、更に水産資源(高次生態系)への影響評価と予測技術の開発への取り組み。
具体的には、地球温暖化適応技術への取り組み(「水研センター地球温暖化対策研究戦略」を参照)

○北水研の亜寒帯海洋環境部では、どんな研究をしているのか(他水研との連携協力を踏まえて)

- ・例えば、技会プロ研「地球温暖化」ーモニタリングの継続とモデル開発への貢献(資料1-⑤)
- ・「資源動向要因分析調査」(水産庁事業)ー資源変動機構と海洋環境との関係解明(資料1-⑥)